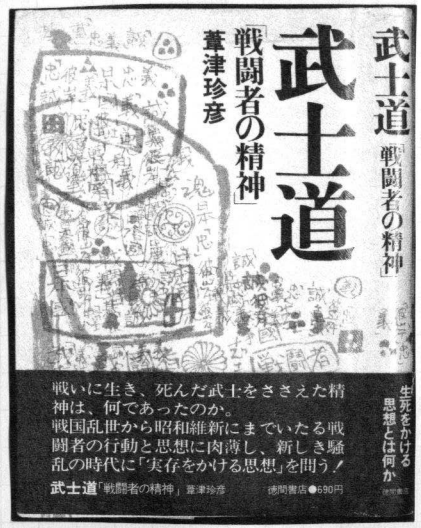
葦津珍彦（あしづたこ）　評論家。明治四十二年七月十七日福岡県生れ、平成四年六月十日歿（一九〇九―九二）。筆名珍、白旗士郎、葦津、葦津生。福島高等商業学校中退。戦時中東條政権を批判して検挙せられる。戦後神社本庁の設立に参加、また神社新報社主筆として神道護持に専心、神社界の指導的役割を果した。

著書『神武天皇紀元論―紀元節の正しい見方』（合著・日本文化研究会編、昭和二十三年二月二十一日立花書房）、『大アジア主義と頭山満』（昭和四十年四月二十五日日本教文社「日本人のための国史」。増補版・四十七年七月二十日日本教文社）、『ロシヤ革命史話』（昭和四十二年九月新勢力社）、『大楠公』（深田與重郎合著・吉田賀朗編、昭和四十二年四月一日兵庫・湊川神社社務所）、『武士道と戦闘者の精神』（昭和四十四年五月十五日徳間書店）、林房雄対談集『日本の原点』（合著、昭和四十七年四月十五日日本教文社）、『みやびと覇権（類纂天皇論）』（神社新報社編、昭和五十五年二月十一日日本教文社）等。葦津珍彦先生追悼録編集委員会編『葦津珍彦先生追悼録』（平成五年十二月二十五日小日本社）刊。